

## 令和2年度事業報告について

# 令和2年度 事業報告

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の世界的流行が、日常生活や経済活動のあらゆる面に影響を及ぼし、一時的な就業の縮小、会員の高齢化や会員数の減少などもあり引き続き厳しい事業運営を強いられた一年でした。

このような中、公益法人として法令遵守を第一義に社会的貢献・社会的責任を果たすべく取り組みを進め、組織の在り方や会員の就業の適正化を進めながら、基本的な就業形態である「臨時的・短期的・軽易な業務」を「請負・委任」を中心に「派遣」による就業も進めるとともに、財源の確保に努める一方、限られた財源の有効活用に意を用い、将来にわたって健全な事業経営の堅持を柱に取り組みました。

また、お客様のニーズを大切にしながら事業の見直しを進め、一層、会員主導の業務推進を図るとともに、事務、事業の見直しによる効率化と公共・民間分野等の新たな受注拡大にも取り組みました。

その結果、コロナ禍で非常に厳しい事業運営の中ではありましたが、一定の成果をみることができました。

これも福知山市ご当局をはじめ、京都府並びに各関係機関、事業所、市民の皆様のご支援とご理解、ご協力の賜物であります。併せて、会員の皆様のご協力とご努力の結果であり、改めて深く感謝と敬意を表すところです。

以下、主な事業実施内容について報告いたします。

## 1. 事業経営方策の推進

シルバー人材センターを取り巻く環境が変化していくことに対応するため、また、高齢者が健康で生きがいのある生活を実現し、同時に地域社会の期待に応え、センターの更なる発展に向けて平成29年度に策定した中期計画を基本に事業を推進しました。

## 2. 健全な安定した事業経営と自主財源の確保

激しく変化する社会、経済環境にあって先行きは不透明な状況の中で、新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、事業経営はさらに厳しさを増しています。

このため新型コロナウイルス感染症に対する安全を確保しながら事務事業の見直し、会員主導の推進、自主財源の確保と健全財政の堅持に努めました。

## 3. 安全就業と健康管理の徹底

平成22年度より「事故0運動」を実施してきましたが、傷害事故、物損事故は後を絶たない状況にあり、深刻に受け止めています。

物損事故についてはさまざまな事故防止対策に一定の成果が表れたものの、機械除草中の事故、剪定作業中の事故及び車両運転中の事故が発生しました。こうした状況から、次年度以降就業前の安全確認のためのミーティングの徹底に取り組みます。

一方、傷害事故については前年度に比べて減少しましたが、加齢にともなう体力や身体機能の低下は避けることができない現実です。

### ○安全就業パトロール

7月21日（機械除草2か所、剪定1か所、道路維持1か所）

8月20日（機械除草1か所、剪定1か所、道路維持1か所）

9月29日（機械除草4か所、剪定2か所、道路維持1か所）

10月20日（機械除草2か所、剪定1か所）

### ○交通安全講習会、健康講座

新型コロナウイルス感染防止の観点から会員が多数集まる機会を避けることとしたため今年度は中止としました。交通安全については、福知山警察署から提供を受けた交通安全啓発チラシを全会員に配布しました。

## 4. 適正就業の実施

会員の就業の基本である「臨時的かつ短期的又はその他の軽易な仕事」を請

負、委任、派遣で就業することについて、法令遵守のもと発注者（お客様）の多様なニーズに対応するため、長年の経験を生かす技術・技能と就業マナーを重視して、適材適所のもと適正就業に努めました。しかし、就業中の言動等により発注者からの苦情があった事実もあり、次年度以降の就業マナー向上のため継続的な取り組みが必要です。

また、従来から課題となっている長期就業については、該当者が多い就業現場の会員にヒアリングを実施しました。会員の高齢化、会員数の減少や就業希望の多様化など課題は多くありますが、実態に合った対応が必要であるため次年度にアンケートを実施します。

- (1) 「就業相談日」の周知を行い実施しました。
- (2) 「請負」・「委任」による就業を核とし、発注者の指揮命令が受けられる「派遣」による就業も推進しました。
- (3) 接遇研修会  
新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。

## 5. 会員の増強

65歳までの定年の延長や継続雇用制度の義務化、高齢者の就業ニーズの多様化等により60歳代後半までの入会が少なくなっていることから、会員の年齢層が上昇し、退会者の増加や活力の維持が危惧される状況にあり、会員の増強は喫緊の課題となっています。

会員増強にあたっては、新聞広告、会報紙「シルバーふくちやま」への会員募集の掲載や地区班活動を中心に会員募集のぼり旗の設置など積極的に実施しました。

また、福知山産業支援センター ドッコイセ!bizの助言と支援により、入会説明会の新聞広告デザインを更新しました。

一方、会員拡大と就業機会の拡大の両面から、市民を対象にした講習会の開催は中止しました。

- 地区班長に会員募集中のぼり旗や入会説明会日程を入れた普及啓発リーフレットを配布して活用依頼しました。
- 研修棟に入会説明会日程の掲示、公用車に会員募集中マグネットシート貼付、会員募集中のぼり旗の常設、機械除草班及び剪定班による会員募集中のぼり旗を設置しました。
- 毎月、会員募集の広告を新聞に掲載しました。

## 6. 就業開拓と受注拡大

年度当初においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に就業が縮小したり受注が減少することもありましたが、新たな受注を得ることもできました。

また、就業創出員を中心にあらゆる機会を通じて、会員の多様な就業ニーズや就業特性（資格・経験・特技など）が活かせる就業分野の開拓と受注拡大に努めました。

## 7. 職群班の育成強化

会員主導型の就業を念頭に、「職群班設置運営規程」に基づき各統括班長及び各職群班班長並びにチーフを中心に、会員の仲間意識の高揚と発注者（お客様）の要望にきめ細やかでスピーディーな対応をするため、機能の充実や技術・技能の向上、安全指導に努めました。

また、安全対策や受注調整など本年度の課題については、年度後半から協議を重ねましたが、剪定班向けの講習会は開催を中止しました。

### ○検針班

ミーティングの開催

### ○剪定班

剪定班は安全対策の徹底、受注調整などを行いました。

## 8. 独自事業の推進と自立促進

「シルバーショップ（やすらぎ）」は、「シルバーショップ運営委員会」を中心に積極的に進めることができました。また、「正月用しめ飾り」等の事業も継続実施することができました。

### (1) 「活かせゲンキなシルバーパワー 和太鼓“翔”」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほぼ一年間活動を中止しました。

### (2) シルバーショップ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年3月から中止していましたが、会員の交流、生きがいや楽しみの場として7月から再開しました。ショップ関係者の企画と努力により多くの来場者を迎えることができました。また、シイタケのホダ木、割木等の販売も実施しました。

### (3) しめ飾り

正月用しめ飾りは、年を追うごとに高品質の製品を製作できるようになり、遠方の神社からのしめ縄の受注もありました。

会員の予約販売だけでなく、シルバーショップ販売も好評でした。これからもお客様に喜ばれる商品を安定供給するには、引き続き後継者の養成と材料の確保が課題となっています。

## 9. 地区班の活動の推進

地区班の活動は、センターの組織基盤をなすものです。センターと会員との緊密な連携体制を整え、地域において生きがいと意欲をもって活動し事業効果を高めるとともに、地域参加や地域活性化に貢献していくことを目的としています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため地区班の取り組みは中止しました。

## 10. ボランティア活動等社会参加活動の推進

公益法人として、広く社会から支援を受けながら公益目的事業を行うため、また、シルバー事業を通して社会的な信用、信頼を高めるため、ボランティア活動等の取り組みが必要ですが今年度は実施を控えました。

## 11. 普及啓発活動の推進

シルバーに対する市民の認知度は一定得られていますが、シルバー人材センターの仕組みや就業の内容について更なる理解を得るために各家庭や各種団体等・地域全体に広く周知を図りました。

- (1) 事業内容を紹介したリーフレットを主要施設や事業所等に配布し、就業機会の拡大に努めました。
- (2) 会報紙「シルバーふくちやま」の自治会組回覧、機関誌「月刊シルバー人材センター」を関係機関及び企業等に配布しました。
- (3) 10月シルバー人材センター事業普及啓発促進月間における活動
  - シルバーの「のぼり旗」をシルバー事務所前に設置して、会員募集、センターの周知と受注機会の拡大に努めました。
  - 普及啓発促進月間の新聞広告を掲載することにより、シルバーの周知に努めました。
  - シルバーの活動を報道機関に取り上げてもらうため、積極的に情報を報道機関に提供しました。
- (4) ホームページによるシルバーの仕組みや事業のPRにより、受注機会の拡大、会員の増強に取り組みました。

## 12. 情報収集・提供・調査研究

全国シルバー人材センター事業協会、近畿シルバー人材センター連絡協議会、京都府シルバー人材センター連合会、府内各シルバー人材センター等との連携を密にして、情報収集、調査研究に努めるとともに、インターネットを効果的に活用して、各種情報を収集して効率的な運営にあたりました。

また、ホームページ、「シルバーふくちやま」や事務局通信で会員等へ情報提供をしました。

## 13. 個人情報の保護

大切な個人情報については、当センターの定めた「個人情報保護方針」等に沿って個人情報の管理と適正な取り扱いに努めました。

## 14. 組織体制の充実強化

会員相互の連帯意識や就業機会の拡大、未就業会員の減少、各事業への参加意識の向上などにつながる地区班の活動はセンターの基盤を成すものであり、地区班長会はもとより様々な機会を通じて地区班長と職員とのコミュニケーションを図りました。また、職群班長とは班長会議、ミーティングや就業を通じて職群班、会員、職員との連携を図りました。

今年度の地区懇談会は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催は中止となりましたが、事務局通信により会員に情報発信しました。

## 15. 事務局機能の充実強化

実務研修への参加は年度後半からとなり、他センターとの交流は最小限となりました。こうした中で京都府シルバー人材センター連合会や他センターとの情報交換などにより、職員の意識改革を促すことで事業の円滑な推進に努めました。

## 16. 差別事象の解決に向けた対応

令和元年度に、会員が就業場所で被差別部落の所在を聞いたり、手で差別表現を繰り返すという差別事象の発生を認知したにもかかわらず適切な対応が

できなかつたことから、福知山市および運動団体の指導・助言を得て解決に向けた取り組みを進めてきました。今後、研修等の具体的な取り組みを進めることとします。

## 17. 会員の福利厚生への推進

会員相互の親睦と連帯意識の高揚並びに福祉の増進を図る「会員互助会」を支援しました。